

Jan.2026

刊行日 2026/01/ 23



生み出すチカラ、
デザインしよう。
想像、創造、
クリエイティブに。

creator's *Winter*

NEWS 68 vol.

レクリエーション第4弾

講習

涅槃図
ねはんず

お釈迦様

in 和歌山



じっくり見てみよう、涅槃図!!

新年も過ぎ、冬の寒さが厳しくなってきた1月10日、好評により再度和歌山県立博物館の島田さんを招き「仏像の歴史と和歌山の歴史」の2回目の講習を受講しました。

前回に続き、今回も仏像の縮小レプリカが3体やって来ました。ひとつは前と同じ胡座姿のお釈迦様でしたが、他の2体は3Dプリンターで製作途中の弟子「阿難」（あなん）と「迦葉」（かしょう）です。塗装前なので真っ白な状態ですが腕の筋肉や手の甲の血管の細部まで細かく復元されており、塗装は他の学芸員が塗っておられると聞いて、木の質感の塗装も含め復元の技術に驚きました。何より仏像を気軽に近くでじっくり見る事ができ、実際に触れてみると、レプリカの制作段階にみんな興味津々でした。

今回の講習内容は、「涅槃図」についてでした。一般的にイメージするのはお釈迦様が横に寝そべり、一見リラックスした姿を想像しますが、実際はお釈迦様が亡くなった場面を表しています。資料の有田郡広川町の蓮開寺にある「涅槃図」では、亡くなったお釈迦様を取り囲むように上部には天空からやって来たお釈迦様の母親である摩耶夫人（まやぶに



涅槃図
ねはんず



ん）やお釈迦様が横たわっている寝台の周囲には今回持参して頂いた「阿難」と「迦葉」など沢山の弟子達も描かれており、阿難は悲しみの余りショックで地面に倒れ伏し、迦葉はお釈迦様の足に触れています。人間以外にも象、蛇、カタツムリ、麒麟等の様々な実際の動物や架空の動物も死を悼む悲しみの場面の様に描かれています。仏教の世界では死はそれほど悲しい事ではなく、輪廻転生の中で今世を終えただけで、これを「解脱」（げだつ）と言い、解放された魂は永遠に存在していると解釈するため、インドでは祝いの事と捉えたと聞き、国によって死の解釈は様々なのだと驚きました。

最後に、3つの涅槃図を見比べるというワークショップを行いました。涅槃図は数多く存在しますが、大まかな構図は決まっているものの、時代や書いた人によって微妙に所々違うところで、例えば描かれている象が蓮の花を捧げたり、落ち込む様に首を垂れていたり、ショックの余りひっくり返って仰向けになっていたりと様々です。島田さんの説明を受けながら、間違い探しのように違う所をみんなで発見できて楽しかったです。

今回も涅槃図を通して仏教やお釈迦さまについて新たな発見とともに解釈が深まり、楽しい講習で充実した時間を過ごし、知識が深まった講習会でした。